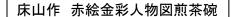
湖東焼

江戸後期、彦根藩で焼かれた陶磁器。文政12年(1829)、彦根の呉服商絹屋半兵衛が開窯し、天保13年(1842)第14代藩主井伊直亮のもとで藩窯とされ、15代藩主直弼治世下に最盛期を迎える。幸斎・鳴凰・床山・自然斎などの名工を輩出し、染付・錦手・金襴手など名品を焼いたが、直弼の暗殺を境に衰微し、文久2年(1862)に廃窯。その後民窯として存続するも、明治28年(1895)に閉鎖された。



湖東焼 染付唐草紋蓋物







湖東焼 赤絵金襴手百老図急須

湖東焼 赤絵金襴手群仙図煎茶碗揃五客





湖東焼 染付銘花十友図水鳥形向付

染付鳳凰図菱形菓子三段重

万延元年(1860)の雪の雛祭の日、彦根の家々でこうした菱形菓子器を前に娘たちが祝いの宴を迎えていた時、井伊直助は桜田門外に散った。





開校10周年記念(昭和8年) 近江商人図一輪挿 亀文堂 正平作



湖東焼 染付鳳凰花鳥図手焙

開港50周年・井伊直弼朝臣銅像建立記念の鉄瓶

明治42年(1909)、横浜開港50周年を期して港を見晴らす 戸部山に井伊直弼朝臣の銅像が建立され、7月11日に記念 式典が開催された。彦根でも明治43年11月12日、招魂社脇 に同様の銅像が完成し、除幕式が挙行された。

この鉄瓶は、その後銅像建立に賛助した者に配られた記念品で、直弼の花押とともに、彼の愛した柳、それに寄せて詠んだ「むっとして 茂とれハ庭に 柳か奈」の句が彫られている。

